

個人投資家向け説明会

2026 年

日産車体株式会社

会社紹介

現在は、クルマのコンセプトやデザインに基づき、設計、試作、実験といった開発業務から、工場での生産ライン設計や設備導入などの生産準備、プレス、車体溶接、塗装、車両組立などの自動車の製造、品質保証までを行っています。

日産車体には、主要な3つの事業所があります。

生産の拠点となるのが本社・湘南工場です。

設計、試作車の製作などを行う開発部門の拠点テクノセンター、テストコースや実験設備を有する秦野事業所があります。

湘南工場では、日産自動車のラインナップとして欠くことのできない小型商用車（LCV）を効率よく、高品質に生産しています。

また、車両の生産拠点として、湘南工場のほかに日産車体九州があります。

世界最高水準の徹底した高品質の追求により、INFINITI ブランドをはじめとするプレミアムカーを製造しており世界的な市場調査においてもトップ品質であると評価されています。

クルマに求められる価値は時代によって変化していきます。

これからも魅力ある質の高いクルマとサービスをタイムリーにお届けし、信頼される企業としてあらゆるニーズに応えていきます。

みなさまから頼られる唯一無二の存在であり続ける。

私たちは日産車体です。

2025年度事業報告の内容

【1. ご挨拶】

ただいまから、日産車体株式会社、第103回定時株主総会を開会いたします。

それでは、目的事項であります、報告事項1、第103期、すなわち、2025年4月1日から、2026年3月31日までの、事業報告の内容、連結計算書類の内容、続いて、報告事項2、第103期計算書類の内容につきまして、ご報告を申し上げます。

【2. 企業集団の現況】

まず、企業集団の現況に関する事項のうち、事業の経過、及び、その成果につきまして、ご説明を申し上げます。

当連結会計年度の我が国経済は、緩やかに景気が回復している一方で、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響等に、留意する必要がありました。

当社グループを取り巻く環境は、米国を中心とした通商問題による、世界経済を通じた間接的な影響に加え、第4四半期に起きた、中東情勢の影響に注視する必要がありました。

【売上高】

このような環境において、当社が、日産自動車株式会社から受注しております、自動車の売上台数は、主に前連結会計年度に生産を開始した「新型パトロール」及び、「新型アルマーダ」の増加等により、15万4千668台となりました。

売上高は、台数増加の影響等により、4千38億円となりました。

【損益】

損益面では、営業利益は台数増加の影響に加え、生産効率が向上したこと等により、141億円、経常利益は、150億円となりました。

特別損益では、当社湘南工場の、サービス部品生産への事業転換に伴い、当社固定資産の減損損失26億円、及び、当社グループ全体で、約800人の対象者を前提に、合理的に見積った人事施策にかかる費用として、事業構造改革引当金繰入額21億円等を特別損失に計上致しました。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、68億円となりました。

【資金調達】

次に、当連結会計年度は、特記すべき資金調達は実施しておりません。

【設備投資】

続きまして、当連結会計年度の、設備投資の状況につきまして、ご報告致します。

当連結会計年度の設備投資の総額は、約132億円で、新商品・マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化、特装車生産及びサービス部品生産に必要な専用設備の導入、厚生施設の改善、環境改善など、諸設備の充実強化に努めました。

【連結計算書類】

【連結貸借対照表】

次に、連結計算書類でございますが、まず、2026年3月31日現在の、連結貸借対照

表の概要につきまして、ご説明を申し上げます。

資産の部合計は、2千711億円となりました。

その内訳は、流動資産が、1千780億円、固定資産が、991億円で、前期末に比べ、72億円の増加となりました。

一方、負債の部合計は、933億円となりました。

その内訳は、流動負債が、874億円、固定負債が、58億円となりました。

また、純資産の部合計は、1千838億円となりました。

その内訳は、株主資本が1千744億円、その他の包括利益累計額が93億円で、前期末に比べ、72億円の増加となりました。

【連結損益計算書】

次に、第103期の、連結損益計算書の、概要につきまして、ご説明申し上げます。

先ほど申し上げました、当社と、連結子会社各社の事業活動の結果、当期の経常利益は、150億円となりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益は、68億円となりました。

【3. 中期経営計画】

続きまして、「中期経営計画」につきまして、ご報告致します。

【環境変化と将来予測】

はじめに、取り巻く環境変化と、将来予測につきましてご説明致します。

当社は、「気候変動への対応の必要性」、「市場のニーズの変化」、「企業の社会的責任の高まり」、「労働人口、従業員の意識の変化」、これらの環境変化を認識し、2023-2027 中期経営計画をスタートさせました。

さらに近年では、中東情勢の不安定化に伴う、ナフサ由来製品の調達リスク、世界的なエネルギー・レアアース等の原材料価格の高騰、加えて為替や関税の影響など、自動車業界を取り巻く環境は急速に変化しており、引き続き予断を許さない状況にあります。

【日産車体の目指す姿】

これらの環境変化を踏まえ、目指す姿を、「商用車とプレミアムカー、特装車、サポート事業で社会に貢献し、お客さまから頼られる唯一無二の存在となる」と定め、これら3つの主要事業の拡大を図っています。

【主要事業の取り組み】

それでは主要事業の取り組みについてご説明致します。

まず「商用車とプレミアムカー」では、多様化するお客様のニーズと市場要件に対応し、売上台数拡大を図ってまいります。

「特装事業」では、日産車に留まらず、他メーカーの軽自動車から、トラックまで幅広く展開すると共に、営業体制を強化することで、売上拡大を図っています。

そして「サポート事業」では、実験評価や設計・試作業務においても、受託領域を日産自動車以外から受託し拡大することで、今後も幅広いお客様のニーズに応えてまいります。

湘南工場は、Re:Nissanの方針により2027年3月末をもって、量産車の生産を終了することとなりました。

そのような中、現有設備や技術・技能を活かせること、また、当社生産車だけでなく、海外を含めた、他メーカーのサービス部品を取り込むことで、事業の拡張性・継続性が期待できることから、サービス部品生産工場へと転換することを決定致しました。

今後は、湘南地区の強みを活かして、事業のさらなる拡大を図ってまいります。

これら3事業の取り組みを通じて、売上及び利益の向上を図り、少数株主様を含めた全ての株主様の株主利益、及び企業価値最大化に努めてまいります。

【2023-2027中期経営計画】

前述した主要事業で目指す姿を具現化するため、2023-2027中期経営計画では、「持続可能な企業基盤」、「魅力ある商品の創出」、「独自性の進化と深化」の3つを重点課題として取り組んでおります。

それでは、3つの柱ごとにご説明を致します。

【持続可能な企業基盤】

1つ目の柱は、「持続可能な企業基盤」です。

本中期経営計画では、活動の柱の中心に掲げ、ESG課題に取り組み、サステナビリティを中心に据えた、事業活動を推進しております。

まず、2050年カーボンニュートラル達成に向けた取り組みでは、台当たりCO₂排出量を、2030年までに2018年度対比で52%削減することを目標としております。

これまでに、照明のLED化や使用電力の可視化、「グリーン電力」への切り替えを実施してまいりました。

また、本館屋上にソーラーパネルを設置するなど、積極的に再生エネルギーの活用に取り組んでおります。

次に、DE&I の取り組みでは、女性活躍を推進する企業が取得できる「えるぼし」や、仕事と育児の両立支援に、特に優れた取り組みを行う企業が認定される「プラチナくるみん」を継続して取得しております。

2025年度は、育児と仕事の両立を支援する休暇制度の新設や、多様な価値観の共存を目指して、パートナーシップへの対応を開始致しました。

【魅力ある商品の創出】

続いて2つ目の柱となる、「魅力ある商品の創出」です。

日産車体九州で生産している高級 SUV は、フルモデルチェンジを実施し約2年が経過しましたが、中近東を中心に高い人気を博しており、2026年3月には、パトロールとアルマーダが「iF(アイエフ)デザイン賞」を受賞致しました。

また、ハイパフォーマンスモデルとして、NISMO仕様の生産を開始し、2025年7月より販売を開始致しました。

加えて16年ぶりにフルモデルチェンジを実施する新型エルグランドは、第3世代へと進化したe-POWERと、e-4ORCE、新世代アクティブノイズコントロールにより、静粛性、高い燃費性能、快適な乗り心地を実現しております。

さて、商用車では、キャラバンとNV200バネットのマイナーチェンジを実施致しました。キャラバンは、安心・安全・快適さを支える、インテリジェントクルーズコントロールや、9インチナビゲーションの設定を追加し、NV200バネットは、「ドアロック連動格納機能付ドアミラー」などを装備致しました。

特装車の高規格救急車「パラメディック」は、人口呼吸器や除細動器などが搭載されている高機能な救急車でございます。

患者様搬送時の負担を軽減する電動ストレッチャーやプライバシーの保護が可能な電子シェード等、医療行為をサポートできる機能を搭載しております。

また、当社とオートワークス京都が、企画、開発致しました、簡易宿泊車「Tabicafe」を2026年より発売致しました。

キャラバンをベースに、明るいインテリアと、大きなベッドを装備し、二人とペットが、車内でゆっくりとカフェをしながら、くつろげる空間を演出しています。

「魅力ある商品の創出」で最後にご説明するのが EV 架装でございます。2025 年 10 月にヤマトモビリティと業務提携し、信頼性の高い国産中古トラックを EV に改造するビジネスを開始し、環境対応の推進に貢献しています。

今後も官公庁向けをはじめとした幅広い特装ニーズに応え、商品力強化を図ってまいります。

【独自性の進化と深化】

さて、最後の柱となるのが、「独自性の進化と深化」でございます。

先ほどもお伝え致しました通り、湘南工場は、サービス部品生産工場へと転換致します。現在、NV200 バネットの駆け込み需要にお応えする為、増産を実施しており、最後の 1 台まで、しっかりお客様にお届けできるよう、取り組んでおります。

また、極少生産量の部品成形や、ヘミング、トリミング、穴あけ加工において、専用金型や専用治具を用いず成形できる、ダイレスヘム、インクリメンタル成形、3D レーザー切断機の技術開発に取り組んでおり、既に一部はサービス部品生産工程で実用化されております。これらサービス部品生産に特化した工法の技術開発を推進し、事業拡大と収益改善を図ってまいります。

日産車体九州では、フレーム 3 車種が好調で、2025 年 12 月末より 3 班 3 交替勤務を開始致しました。

モノコック車とフレーム車の混流生産では、稼働率向上を目的に生産ラインのシミュレーション解析を実施し、ボトルネック工程の早期改善に取り組んでいます。

また、各工程の設備稼働率に応じた、能力を検証することによって、設備保全、点検内容を最適化し、生産ロスの更なる低減を推進していきます。

引き続き、直行率・稼働率の改善を進めるとともに、中東情勢不安を始めとする国際的な地政学リスク、継続するインフレなどの外部環境の変化を注視しつつ、必要な措置を講じることで 1 台でも多く、かつ迅速にお客様にお届けできる様に取り組んでまいります。

2023-2027 中期経営計画の 4 年目にあたり、引き続き当社の強みである、開発から生産まで、一貫したモノづくり体制を活かし、市場の動向に柔軟に対応できる生産運営

の構築、並びに法令遵守やコーポレートガバナンス強化に取り組んでいくことで、株主様、お客様、取引先様、地域社会の皆様、そして従業員を含むすべてのステークホルダーの皆様からの信頼を高められる様、全社一丸となって努めてまいります。

以上、「報告事項１」の内、事業報告の内容、連結計算書類の内容、並びに、「報告事項２」の、計算書類の内容につきまして、ご報告を致しました。

【４．２０２６年度の業績見込み】

ここで、２０２６年度の、当社の業績見込みにつきまして、ご説明をさせていただきます。
まず、当社の売上高は、４千４８０億円を見込んでおります。
また、営業利益、経常利益は、それぞれ、２１０億円、２１５億円を見込んでおり、親会社株主に帰属する当期純利益は、１４０億円を、見込んでおります。

なお、中東情勢の不安定化に伴う、ナフサ由来製品の調達リスク、世界的なエネルギー・レアアース等の原材料価格の高騰、加えて為替や関税の影響など、当社の経営を取り巻く環境は、不透明な状況が続くことも予想されます。

業績に影響を及ぼす場合には、開示基準に従って速やかに開示致します。

以上が２０２６年度の業績見込みでございます。

【５．閉会の挨拶】

皆様におかれましては、従来にも増した、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。